

令和2年7月豪雨における農業災害復旧ボランティアの活動について

令和2年10月19日

(産業経済部農林水産課)

1. 農業被害状況 (10月19日現在)

- ・農地被害 : 約170件
- ・農業施設被害 : 約200件 (ため池、農道等)
- ・被害内容 : 河川の氾濫による田や畑・農業用ハウス等への土砂流入、法面崩落による樹園地への土砂流入 等

2. 大牟田市農業災害復旧ボランティアサポート協議会設立について

(1) 設立経過・目的

- ・公的支援を受けられない農地等への対応が必要

- ・事業費が40万円未満
- ・土砂の堆積が5cm未満等

- ・農業就農者が高齢化しており、営農継続意欲の低下、コミュニティの低下

- ・農業就業者人口における高齢化率 66.6%

※農業就業者人口・農業に主として従事する者 (2015年農林業センサスより)

- ・耕作放棄地の増加により

- ・雑草や害虫が発生する
- ・農地が持つさまざまな機能が失われ、災害時の危険性が高まる
- ・廃棄物の不法投棄の原因となり、景観を損ない、自然界への悪影響
- ・野生動物の行動圏となってしまう、イノシシなどの野生動物が頻発

- ・令和2年8月～9月、大牟田市によるモデル事業の実施

- ・農家への調査票配布・回収、聴き取り (7月～)
- ・要望内容 : 田や畑・農業用ハウス・樹園地等の土砂、小石撤去、土嚢袋による土羽の応急的な復旧、農業用水路・農業用倉庫内の土砂撤去 等
- ・実施か所 : 11か所
- ・ボランティア参加者 : 176人 (延べ人数)

- ・こうした経過を踏まえ、関係機関と連携し、農地等の復旧活動を行い、被災農家の早期営農再開、コミュニティの回復を行う

(2) 団体構成

被災地区農家代表、市内5農事組合、南筑後農業協同組合、南筑後普及指導センター、大牟田建設業協同組合、NPO法人 がんばりよるよ星野村、一般社団法人AAAアジア&アフリカ、大牟田市

(3) 周知方法

- ① 農業者への周知：チラシ配布により更なる支援ニーズの掘り起こしを行う。
- ② ボランティアへの周知：チラシ、ポスター配布、SNS（フェイスブック）等での情報発信を行う。

(4) 活動イメージ

【 別紙 1 】

(5) 問合せ

農業者・ボランティアとも、下記「農業災害復旧ボランティアサポート拠点」に電話、もしくはフェイスブック（「大牟田市農業災害復旧ボランティアサポート協議会」にて準備中）、等を通じお問合せください。

- ・ 農業災害復旧ボランティアサポート協議会
所在地 大牟田市大字上内 3411 番地 旧高木石油跡地
連絡先 080-3018-6050 (山崎)